

めでいかすとり Médicastre



「スキー同好会」

鶴岡地区医療学術懇話会抄録

期 日：平成23年3月4日(金)
場 所：ベルナール鶴岡

『慢性腎臓病における貧血管理の重要性：高畠研究から』

山形大学医学部内科学第一講座

准教授 今田恒夫先生

慢性腎臓病（Chronic kidney Disease, CKD）は末期腎不全のみならず、心血管イベント、総死亡のリスクである。近年、腎機能低下により出現する腎性貧血が、腎・生命予後をさらに悪化させることが明らかとなり、腎臓病・心血管疾患における貧血の影響に注目したCardio-Renal Anemia Syndromeという概念が提唱されている。

山形大学医学部がGlobal COEプロジェクトの一つとして行っている高畠町一般住民における検討では、慢性腎臓病は約24%（アルブミン尿のみ17%、腎機能低下7%）と高頻度にみられ、特に心血管疾患（心筋梗塞、脳卒中）既往のある受診者の約半数に合併していた。貧血の頻度は、男性では加齢とともに増加し、女性では50歳未満と70歳以上で高値であった。腎機能との関連では、推定GFR 50 mL/min/1.73m²未満で貧血の頻度が増加していた。血中ヘモグロビン(Hb)レベル別の5年間の腎機能変化を比較すると、低Hb群で腎機能低下が有意に大きかった。心負荷・心筋障害を反映する血中BNP・H-FABP値は、貧血の進行とともに増加し、腎機能低下の合併でさらに増加していた。これらの結果から、高畠町一般住民でも、貧血と慢性腎臓病、心疾患の関連が示唆された。

慢性腎臓病における貧血管理については、日本透析医学会・日本腎臓学会から血中Hb値 11g/dL以上（保存期慢性腎臓病患者）、10-11g/dL（血液透析患者）の目標が掲げられているが、目標達成率は50%程度である。腎性貧血の治療では、エリスロポエチン製剤が中心的役割を担っているが、最近、長時間作用型の製剤も使用可能となり、今後治療成績の向上が期待されている。慢性腎臓病患者の腎・心血管予後、QOLの改善のために、貧血管理の重要性を理解し、積極的に治療することが望まれる。

日本医師会医療情報システム協議会抄録

期 日：平成23年2月12日・13日
場 所：日本医師会

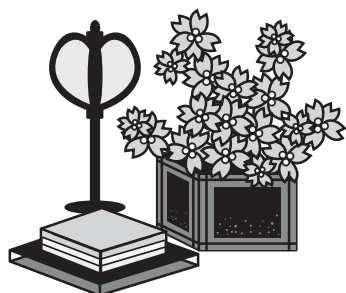
『リアルタイムな疾患データベース化を実現した脳卒中地域連携パス』

鶴岡地区医師会（庄内南部地域連携パス推進協議会）

丸 谷 宏

山形県鶴岡地区は人口約16万人の地域であり、ほとんどの急性期脳卒中患者は中核病院である鶴岡市立荘内病院に搬送される。また、鶴岡地区ではNet4Uという地域電子カルテシステムを10年にわたり運用しており、セキュアな医療情報ネットワークが整備されている。脳卒中地域連携パスを開始するにあたり急性期、回復期、維持期の各医療機関からインターネットを介して利用できる一元化したITパスシステムを開発し、平成20年より運用を開始した。

IT化した地域連携パスでは、急性期を退院した患者情報を各医療機関でリアルタイムに共有でき、スムーズな連携が図れるばかりでなく、データベース化された情報の集計、評価を簡便に行えるため地区全体の脳卒中発症数や再発率、診療体勢の把握が可能となった。今後さらに症例を蓄積することで、血压管理を重点とした維持期連携パスによる再発率低下など疾患管理を目指している。



日医学校保健講習会・日医母子保健講習会

期 日：平成23年2月19日・20日
場 所：日本医師会

『平成22年度学校保健講習会および母子保健講習会に参加して』

鶴岡市立荘内病院小児科 伊藤末志

2月19日(土)に学校保健講習会、2月20日(日)に母子保健講習会がそれぞれ日本医師会館で行われました。例年冬の嵐が吹き荒れる時期ですが、本年も前日までは大嵐でした。幸い当日の庄内空港から羽田行きの1番機が定刻で飛んでくれ、10時の開会に遅刻することなく参加できました。

学校保健では、文科省の学校保健対策専門官が「最近の学校保健教育行政の課題について」と題して、1. 感染症への取り組み、2. 学校におけるアレルギー疾患への対応について講演を行い、平成21年の新型インフルエンザの流行の経験から「新型インフルエンザ対策行動計画・ガイドライン」の改定が進められていること。平成19年の高校・大学を中心とする学校などでの麻疹流行を経て、平成20年4月から5年間に限り、中学1年生および高校3年生に相当する年齢の者を定期予防接種の対象者にして積極的な接種勧奨を行っていること。近年児童生徒のアレルギー疾患の問題が指摘されており、実態調査の結果を踏まえて、平成19年4月に「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」と「学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）」を作成し、平成20年4月に各学校に配布したが、いまだ学校側や学校医の認識不足があり、普及啓発を推進していること。などの内容でした。

次に、「思春期の健康教育—産婦人科の立場から—」と題して日本産婦人科医会女性保健委員会委員長の講演がありました。思春期の2大トラブルは①月経異常と②性交後の悩みであり、それぞれにしっかりと対応していかなければならないが、それ以前の問題として学校での性教育の重要性を再確認する内容でありました。

「子宮頸がんにおけるHPVワクチンの意義」について日本産婦人科医会常務理事から講演がありました。頸がん発生頻度は減少傾向だが、若い世代に増加していること。HPV感染の90%以上は一過性感染だが、残りが慢性持続性感染となり、その一部が3～10数年で発癌すること。HPVワクチンを若年女性に行い、20歳を越えたら必ず定期的な子宮がん検診をして、子宮頸がんを予防しましょう、が結びでした。

最後に「普通学校における高機能自閉症の子どもをどのように考えるか」のシンポジウムが生まれ、①医師の立場から、②臨床心理士の立場から、③養護教諭の立場から、④保護者の立場から、それぞれ発言があり討論されました。内容は省略しますが、愛知県には自閉症協会（つぼみの会）があり、今年で44周年になるそうです。会員数は約900人、会員の約4割が高機能自閉症であり、最近の入会は学齢期の高機能児が多いということでした。

翌日の母子保健講習会は「子ども支援日本医師会宣言の実現を目指して」をメインテーマに開催されました。午前、午後にそれぞれ1つずつのシンポジウムが組まれました。午前中のテーマは「HTLV-1 母子感染予防対策について」で、①ALTについて、②母子感染について、③患者の立場から、④行政の立場から、それぞれ発言がありました。

HTLV-1（ヒトTリンパ球好性ウイルスI型）が原因である成人T細胞白血病リンパ腫（ALT）は、きわめて難治性ですが、無治療でも数年以上病勢が進行しないことがある indolent（慢性型/くすぶり型）ALTから、多臓器浸潤、高Ca血症、AIDSと同様の日和見感染症などに

より無治療では数週間で死に至ることが多い aggressive（急性型/リンパ腫型）ALTまで、臨床病態が多様であることが説明され、全国には100万人以上のHTLV-1の感染者が居るといことです。ただし、患者は西日本に偏在している傾向があり、今まであまり身近な疾患としては考えていませんでしたが、近年は九州地方の患者は減少傾向にあり、関東から東北地方に拡散され、同地区で増加傾向にあるとの調査結果が示されました。また、母子感染の主経路が母乳感染であることが証明され、キャリアの母親からの母子感染率は、人工栄養では2.4%であるのに対し、母乳栄養では20.5%と差が認められています。患者の立場からは安河内眞美さん（美術商やすこうち代表）が本疾患で医療機関を受診したときに「1年後にはあなたは居ないでしょう」と言われ、大きなショックを受けたこと。周囲の人間が一生懸命に「いい医者」がいなかったインターネットで検索してくれたおかげで今日まで生きてこれたこと。などを涙ながらに語ってくれました。医師の一言の大きさを再認識させられることになりました。

午後は「0歳児における虐待防止対策の取り組み」をテーマにしたシンポジウムでした。①行政の立場から、②現場からの考察、③小児科診療所の立場から、④ペリネイタルビジット事業について一大分県ペリネイタルビジット事業から一、の4者からの発言があり討論されました。

平成12年11月に施行された「児童虐待防止法」

が10年経過しましたが、この間児童虐待相談の対応件数は一貫して増加し続け、なかでも0～3歳未満の数が全体の20%程度で推移しています。死亡事例はとりわけ0歳児が多く、例年最も多い割合であることが示されました。このように乳児期の虐待死亡例が多いことは、望まない妊娠の問題や育児不安、産後うつ等が背景に見られることから、地域における妊娠期からの相談しやすい体制づくり及び、母子保健をはじめとする関係機関の連携強化が求められています。小児救急現場で遭遇する児童虐待の数々として①望まぬ妊娠に起因するケース、②家庭・家族力の低下に伴うケース、③「親としての自覚」を感じないケース、④原因不詳（家庭力の問題？）なケース、に分類して解説されました。開業医からは、その役割として「単なる発見者や通告者であってはいけない」とし、①疑う、②加害者を責めない、③子どもの安全確保（できる限り入院）、④通告（児相あるいは子ども家庭支援センターへ）、⑤早期に関係者会議を開催、⑥診断書の作成、⑦親への告知、⑧ケース会議への継続的な参加、をあげ具体的な対応の仕方が解説されました。

「大分県ペリネイタルビジット事業」は、県の産婦人科医会、小児科医会、医師会、各自治体の保健師が協力して、妊娠時から出産後までの子育て支援に取り組んでいることの報告でした。どこの県でもやろうと思えば可能な「0歳児虐待予防対策」と思われました。

期 日：平成23年2月25日(金)
場 所：東京第一ホテル鶴岡

三 師 会

中 村 秀 幸

恒例の定例会が去る2月25日(金)に東京第一ホテルで開催されました。出席者は医師会より21名、薬剤師会より18名、歯科医師会より13名の参加を得ました。

初めに今年の当番会である本地区医師会、中目会長より挨拶がありました。最近の医療を取り巻く情勢について、まず酒田と鶴岡の医師会間での「庄内」を一つの医療圏として酒田との役割分担、連携を推進していく方向性が示されました。そのための連携ツールとしてITを利用、推進するという本地区医師会の方針をわかりやすく具体的に述べられました。

続いてプレゼンテーションとして本地区医師会、三原副会長より「ITを利用した連携パス」と題して講演をいただきました。現在進行中の脳卒中パスやすでに運用開始されている大腿骨近位部骨折の連携パスは、すでにIT化されリアルタイムな疾患データベースとして蓄積が始まり、集計や評価が始まっています。また開始が検討されている糖尿病やこれから始まろうとしているがんパスなども将来的にはIT化すべく検討中とお聞きしております。

また、病院間での経過や検査結果などの情報を相互に閲覧できるシステムの構築が始まろうとしています。酒田の日本海総合病院で1年先にスタートしている「ID-リンク」という仕組みが稼働し始めており、現在鶴岡でも庄内病院で準備が進められております。これからは病院に通院したり、入院したりの情報を（患者さん

より同意を得られた）かかりつけ開業医が閲覧可能となります。病病あるいは病診連携に強力なツールとなりますね。鶴岡ではNet-4Uを組み合わせることで相互の情報交換や意見のやりとりを行うことでより質の高い医療が実現可能となるでしょう。

懇親会は歯科医師会会長、石黒先生の御発声で開始となりました。近い将来に東田川郡と鶴岡の歯科医師会が念願の合併となることをアナウンスされました。また、「口腔ケア」は歯科の世界では大きな治療の柱であり、ゆりかごから墓場まで広範囲をカバーする非常に重要なテーマであること、今後在宅医療を含めた医師会との連携を推進していくことを強調されました。

毎度の如く各テーブル入り乱れての懇親となり、日頃なかなかお会いできない先生方との和やかな懇親の場となりました。私も杏林堂の渡辺洋井先生やスズキ薬局の鈴木千晴先生、みどり町薬局の柴田先生やあかね薬局篠田先生、庄内病院の阿部先生などなどいろいろなプロジェクトや日常の診療や在宅での関わりなど以前に比較して多くの「関わり」を感じたひと時でした。顔の見える、関係いいですね。

二次会に飛び出したはいいけれど、〇〇ドールでしこたまワインをあおってしまい、上着をわすれる落ちまでついてしまいました。

みなさんもぜひ来年は近くの歯科医院、薬局の先生をお誘いしてご参会ください。

期 日：平成23年3月3日(休) 13：30～
場 所：医師会3階講堂

第51回鶴岡准看護学院卒業証書授与式

ご来賓の先生方、所属医院の先生方、多くの保護者の皆様並びに学院運営委員の先生方にご臨席いただき、25名の卒業生が新たな道を踏み出しました。皆様に支えていただき、心より感謝申し上げます。

卒業生総代 佐藤 加奈子

思い起こせば2年前、准看護師を目指し、固い決意を胸にこの学院の門をくぐりました。

高校卒業後すぐに入学した者、社会に出て幾年かを経て学ぼうとした者、それぞれ人生経験の異なる者同志が同じ教室で学ぶことに入学当初は戸惑いを感じていました。同じ目的を持つ者同志、看護の厳しさに悩み、立ち止まり涙することもありましたが、年齢の差を越えてお互いを励まし合い、悩みを分かち合い乗り切ることができました。

また、厳しさの中にも温かく導いて下さった先生方がいたからこそ、25名が今日この日を迎えることができたのだと思います。

看護はコミュニケーションに始まり、そこから生まれる信頼関係をはぐくみながら、個性を考え、思いやりを持って臨むものであることも臨床の場を経て学ぶことができました。

幾度かの涙があったからこそ、人の痛みや悲

しみを知り、自分の強さとなりここに立つことができたのだと思います。これから進む道はそれぞれ異なりますが、誇りを持って一生懸命努力していきたいと思っています。

答辞よりの抜粋

土田 理紗

入学するまでは不安と緊張でいっぱいでしたが、入学後には迷いもなくなり、頑張ろうという気持ちに変わりました。

実習で受け持たせていただいた患者さんを忘れることはできません。指導して下さった看護師の方々、先生方には大変ありがたく思っています。これからは責任を持ち、気づける人になりたいと思っています。

2年間有難うございました。

鈴木 岳道

学院生活は予想以上に大変でしたが、続けることができたのは、看護師になりたいという強い意志からだと思っています。

その思いを大切にし、これからは准看護師として社会に貢献していきたいと思っています。

必ず立派な准看護師になります!!



マイペット & マイホビー

— 第70回 —

南部 知子

私の趣味は食べ歩きと旅行。今回は旅行について書こうと思います。

色々な所に行って、きれいな景色、歴史のある建物を見たり、その土地の美味しいものを食べるのが好きです。国内、海外、どちらも楽しいけれど、海外旅行は気合が入ります。大学の卒業旅行はイタリア周遊でしたが、この時はガイドさん同行の観光も食事も組みこまれたツアーでした。効率よく色々周れるけれど、自由時間がないし、食事も決められてしまいます。食べ歩きも趣味の私は、その後の旅行は個人旅行で行くようにしています。その代わり準備は万端。まずはホテル探し。以前駅から遠いところをとってしまい、スーツケースを引っ張りながら歩いて大変だった経験があるので、自分で行く場合は駅からの近さやどこかに行く際の交通の便の良さを重視します。ネットで色々なサイトを見て、口コミを参考に、まわりにあるお店もチェックして便利そうなホテルを決めます。現地に着



ナイアガラの滝

いた時にはさんざん日本で調べているので、“あ、ここが〇〇ホテルね”と大体見覚えができています。“花より団子”ではないけれど、観光より食べる方が好きなので、その次の下調べは現地では何を食べるか。高級なレストランよりもB級グルメ的なものが好きなので、気楽に地元の料理の食べられる店や、もともと好きなパンやケーキの店、スーパーやデパートなどのデリを探します。その次に観光。有名どころはチェックし、現地での交通を調べておきます。私が万全に準備するので、一緒に行く人たちは現地でのことは私にお任せで、ツアーの添乗員のようになっていました。

これまで行っていちばん良かったのは観光としてはグランドキャニオンです。小学生の時に初めての海外旅行で家族と行きました。行くまでのセスナで酔ってしまい、食事もできずぐったりしていましたが、あの壮大さ、長い年月をかけて造った自然のすごさを感じました。大人になってから主人にも見せたくてもう一度行きましたが、この時は天気が悪くて視界が悪く、せっかく行ったのに近くしか見えず残念でした。他に印象強いところとしてはナイアガラの滝。日本の滝にはないスケールの大きさに圧倒されます。ヨーロッパは海外の中でも一番好きなエリアです。建物は色々見て写真をとりますが、どれも似たりよったりで後から見てどれが何の建物なのかわからなくなってしまいます。ドイツのノイシュヴァンシュタイン城は中学生のこ



ノイシュヴァンシュタイン城

ろ英語の教科書に載っていて、行きたい場所だったので印象に残っています。登山電車で見に行ったスイスの山はきれいでした。食べておいしかったのはウインナーシュニッツェルとパリのフランスパンとケーキ。私がパリに行った時は円安で1ユーロが160円台でした。小さなケーキ1個が7-8ユーロで、日本円にすると1,000円以上しました。高かったけれど、せっかく行ったのだからと毎日ケーキを食べていました。ただヨーロッパは遠いので、そうしょっちゅう長くは休めないで、この頃は近くの韓国もお気に入りです。韓国は距離的にも近いし、見た目も同じアジアで日本人に近いので、現地に行っても外国に来たという緊張感がないので気楽です。一人旅行もしてきました。一人旅の時には韓国の歴史ドラマによく出てくる宮殿の中の建物を、オーディオガイドを借りて“あのシーンで出てきたな”と思い出しながらひとつひとつ見てきました。他の人と一緒だったらそんなにゆっくりは見ないと思うので、一人旅も気ままに動けてたまには良いなと思いました。

失敗といえばこれまで海外で2回スリにあったこと。スペインとオーストラリアでした。きつねにつままれたとはこういうことを言うのだと思いました。全然気づかない間にバッグが開け

られ、財布が無くなっています。うそでしょ？と本当に信じられませんでした。すられたとわかった時はドーンと落ち込んで、楽しいはずの旅行も楽しめず、立ち直るのに数日かかりました。

ここ10年位は飛行機会社のカードでマイルをためて、特典航空券にして行くことが多いです。私はJAL、主人はANA。今はJALには全然乗らないので専ら陸マイラーです。これまで韓国2回、台湾、ニューヨーク、パリ、ドイツに行きました。韓国や台湾だとマイルも少なくて済むのでどちらかのマイルで二人行けますが、私がニューヨークの特典航空券に変えた時は、二人分はさすがになく、ANAマイラーの主人はANAで行き、現地集合したことも。旅行の閑散期はマイルも少なくて行けるので、冬が多く、寒かったり、花がきれいな国なのに花が咲いていなかったりですが、それなりに楽しんでいきます。さすがにベルサイユ宮殿に2月に行った時はきれいなはずの庭園には何もなく、バラのきれいな季節に来ればよかったと思いました。

まだまだ行きたい国や、もう一度行きたい国、食べたいものなどたくさんあります。旅行は現地での行動に思いをはせている時がいちばんわくわくします。さて、次はどこに行こうかな？



スイスの山々

スキー同好会紹介

日 時：平成23年3月5(土)
場 所：湯殿山スキー場

毎年恒例の医師会スキー同好会を、3月5日の土曜日に湯殿山スキー場で行ないました。

例年、スキー場のふもとにある「民宿なかだい」にて1泊2日で行っていたスキー同好会ですが、今年でその「民宿なかだい」が店じまいをされるということで、今回は日帰りスキーと夜の反省会の2本立てで行ないました。

日中の日帰りスキーは、健康管理センターの引越し等で多忙な時期でもあり、12人といつもより少し寂しい参加人数でしたが、天候は私たちに味方してくれたようです。

数日前から冬型の天候になってくれたおかげで、ゲレンデのコンディションはとてもよかったようです！ 当日も雪が降りつつ晴れ間の見える、スキーやボードをするには絶好のお天気でした。

という私は、数年前からクラブハウスでお見送り係に徹し…1本も滑っていないのですが、スキー、ボードチームは午前と午後合わせて10本近く滑り、楽しまれたようです。

また、今年1月の豪雪の影響で、山の上は今までと比較にならないくらいすごい雪だったとか…。現在は使われていない、上方にあるリフト側にある小屋などは、完全に雪に埋もれていたようです。

昼食はいつものクラブハウスでとりましたが、今回は少し寂しい人数だったせいか、ビールの量もそれほどはかどらなかった…ということもなく、大いに盛り上がりました。

夜の部は18時から、健康管理センター近くの「IZUMI」にて行いました。

日中参加できなかったメンバーも加わり、おいしい食事とお酒を楽しみながら、日中の話題や、これまでの同好会の思い出、また次回のスキー同好会をどうするか…といった話題に花が咲きました。

以前から要望の声が出つつも実現していなかった「蔵王一泊スキー同好会」。来年は実現しそうです！ 来年は、3月10～11日で、蔵王に1泊2日を計画中です。

ぜひ、今まで参加したことがない方、これまで何度か参加している方も、蔵王温泉でゆっくり癒されながらウィンタースポーツを楽しんでみませんか？

来年、皆様の参加をお待ちしています！

検診課 工藤 智美



新健診センター建設準備室便り

No.26

2月24日に第33回の建設委員会が開催されました。最初に、受診者に対する食事提供のコンペ結果について、職員間で選定した業者から弁当を会議の前に準備してもらい、建設委員の先生方から試食していただきました。試食の結果、その業者を採用することが決定し、今後は現場を確認して配膳方法の検討や食器等の選定を進めていく事で承認されました。次に、消防、主事、監理者・施主の各検査の完成検査の報告があり、大きな指摘事項はなく、軽微な壁の汚れ、塗装はがれ、建具の傷等が確認された部分に関して、早急に補修してもらうよう指示した旨の報告がありました。新センターの外構計画については、当初、新センター駐車場内に一部鶴岡幼稚園用の駐車場を予定しておりましたが、幼稚園側で協議を行った結果、不要になったとの報告がありました。また、駐車場部分の変更と植栽計画について説明があり、それぞれ了承されました。新センターのオープンセレモニーについては、テープカットを4月1日(金)の13時30分から行うこととしました。現センターの改修工事については、2階会議室の壁と天井をクリーニングする予定でしたが、テストしたところ効果がほとんど見られなかったため、天井と壁面をビニールクロスの壁紙に貼り替えることで了承されました。開設までのスケジュールについては、医療機器、サーバー等の設置、移設と引越し作業の説明を行い、3月下旬に開催される会員向け内覧会と一般向け内覧会の日程について確認をしました。建設委員会終了後には、建設委員の先生と新センター内部を見学していただきました。

2月28日には外構を除く建物部分が引渡しとなりました。現在は職員による新センターへの引越し作業とレントゲン機器等の医療機器の設置、移設作業が行われており、3月18日から3月21日までの予定で臨床検査課の検体検査機器の移設作業が行われます。移設期間中は、会員の皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。また、先月号の準備室便りでもご案内いたしました。下記日程で会員向け内覧会を予定しております。より多くの方のお越しをお待ちしております。



受診者食堂



受診者休憩室



胃部撮影装置

新センター会員向け内覧会のお知らせ

下記日程にて新健診センター内覧会を予定しております

3月24日(木) 17:00～18:30
 3月27日(日) 10:00～15:00
 3月30日(水) 15:00～20:00
 3月31日(木) 13:00～15:00

ぜひ、ご覧くださるようお願いいたします

お問い合わせ 医師会庶務課 TEL 22-0136



編集後記

ようやく厳しい冬が終わりに近づき、三寒四温の今日この頃。梅のほころぶ季節となってきました。今年も雪が多いんだか少ないんだかよく分からない冬でした。これから鶴岡は、美しい季節を迎えます。息を飲むくらい美しい鶴岡公園の桜。さながら緑のじゅうたんのような田んぼ。煌く夏の日本海。遠くの山々の頂上から降りてくる紅葉。冬眠から目覚めるクマのように張り切って活動してみようかという気になります。

言葉を紡ぎ出すのが苦手な私は、様々な有名人の言語録というものを好き好んで読みます。ワンフレーズに色々な思いを込めて相手に伝える。僕がもっと勉強していかなければならない分野です。

「患者の命は、一分の一。」

(心臓内科医 延吉 正清)

医者からすれば、目の前の患者は大勢の中の一人かもしれないが、不安や苦しみを抱えてやってくる患者側から見れば、その医者は唯一無二の存在だ。医者はそれを忘れてはならない。これほど端的に医者としての心得を表している言葉があるでしょうか。僕のネタ帳がまた増えました。

3月4日付朝日新聞より

「本人に、仕方なかったと言えるだろうか。」

現在は開業医である先生が救命救急医だったころ。腹痛で搬送されてきた女性がなすすべもなく原因不明のままお亡くなりになりました。その後の司法解剖で腹部大動脈瘤破裂と診断がつかしました。「仕方なかった。」と納得しながらも20年たった今でも忘れることのない出来事だそうです。

母子保健講習会での安河内眞美さんの談話における医師の一言の大きさというのも一医師として常に意識していかなければならないことでしょう。

3月は卒業シーズンです。最後に卒業というものをしてからずいぶんと時が経ちました。が、日々の雑事に追われて初心を忘れることなく新たな年度、日々邁進していきたいものです。

(高橋 由至)

編集委員：中村秀幸・伊藤末志・福原晶子・斎藤憲康・阿部周市・高橋由至

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail tsurumed@jupiter.ocn.ne.jp

URL <http://www15.ocn.ne.jp/~tsurumed/>